



たかさご未来資産を貯めようプロジェクト

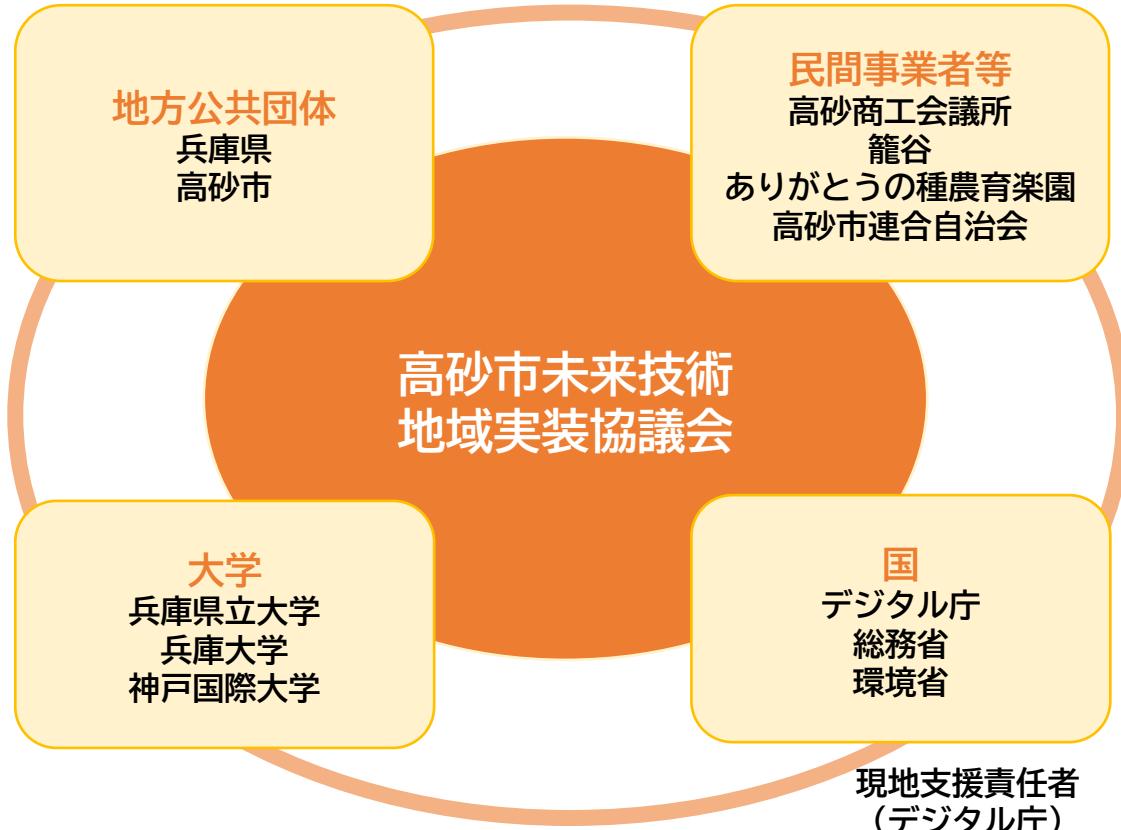
高砂市未来技術地域実装協議会資料

令和6(2024)年5月27日 高砂市

目 次

高砂市未来技術地域実装協議会	1
高砂市庁内推進体制	2
全体ロードマップ	3
令和6年度事業の主な取組について	4
令和6年度実証事業について	5
実証事業で測りたい効果について	6
実証事業者による提案説明	7
実証事業概要（デジタル地域ポイント事業）	8
ロジックモデル（デジタル地域ポイント事業）	9
実証事業概要（地域活動支援事業）	10
ロジックモデル（地域活動支援事業）	11
多様な主体と連携について	12
実証事業スケジュール	13
デジタルデバイド対策について	14

高砂市未来技術地域実装協議会



高砂市未来技術地域実装協議会規約

令和4(2022)年11月25日 策定
令和6(2024)年5月9日 改正

【目的】

「たかさご未来資産を貯めようプロジェクト」を実施するにあたり必要な検討、調整を行う。

【協議事項】

- (1)社会実証・実装に向けた検討・協議
- (2)社会実証・実装の実施、実施結果に関する評価・検証
- (3)事業化に向けた施策の検討
- (4)その他目的達成に必要な事項

【本協議会の位置づけ】

附属機関に類する機関として、規約の定めるところにより、国、県、学識経験者、民間事業者等の意見を広く求め、本プロジェクトに反映させることを目的として設置する懇談会等の会合とする。

委員についてはスマートスタートで開始し、協議が進む中、さらに関係する団体等の参加を要請する。また、必要に応じて、部会等、詳細協議を行う場も設ける。

高砂市庁内推進体制

未来技術社会実装事業推進本部

本部長：市長
 副本部長：副市長
 本部員：理事、技監、政策部長、総務部長、財務部長、市民部長、健康こども部長、福祉部長、生活環境部長、都市創造部長、上下水道部長、教育部長
 事務局：企画課

専門部会

部会長：企画課主幹
 副部会長：環境政策課主幹
 部会員：I C T 推進課長、地域振興課長、文化スポーツ課長、地域福祉課長、産業振興課長
 事務局：企画課

ワーキンググループ

座長：企画課主幹
 副座長：環境政策課主幹
 委員：I C T 推進課、地域振興課、文化スポーツ課、地域福祉課、産業振興課
 事務局：企画課

高砂市未来技術社会実装事業推進本部設置要綱

令和4(2022)年9月1日 策定
 令和5(2023)年5月24日 改正
 令和6(2024)年5月1日 改正

高砂市未来技術社会実装事業推進本部専門部会設置要綱

令和5(2023)年5月24日 策定
 令和5(2023)年9月5日 改正
 令和6(2024)年5月8日 改正

【目的】

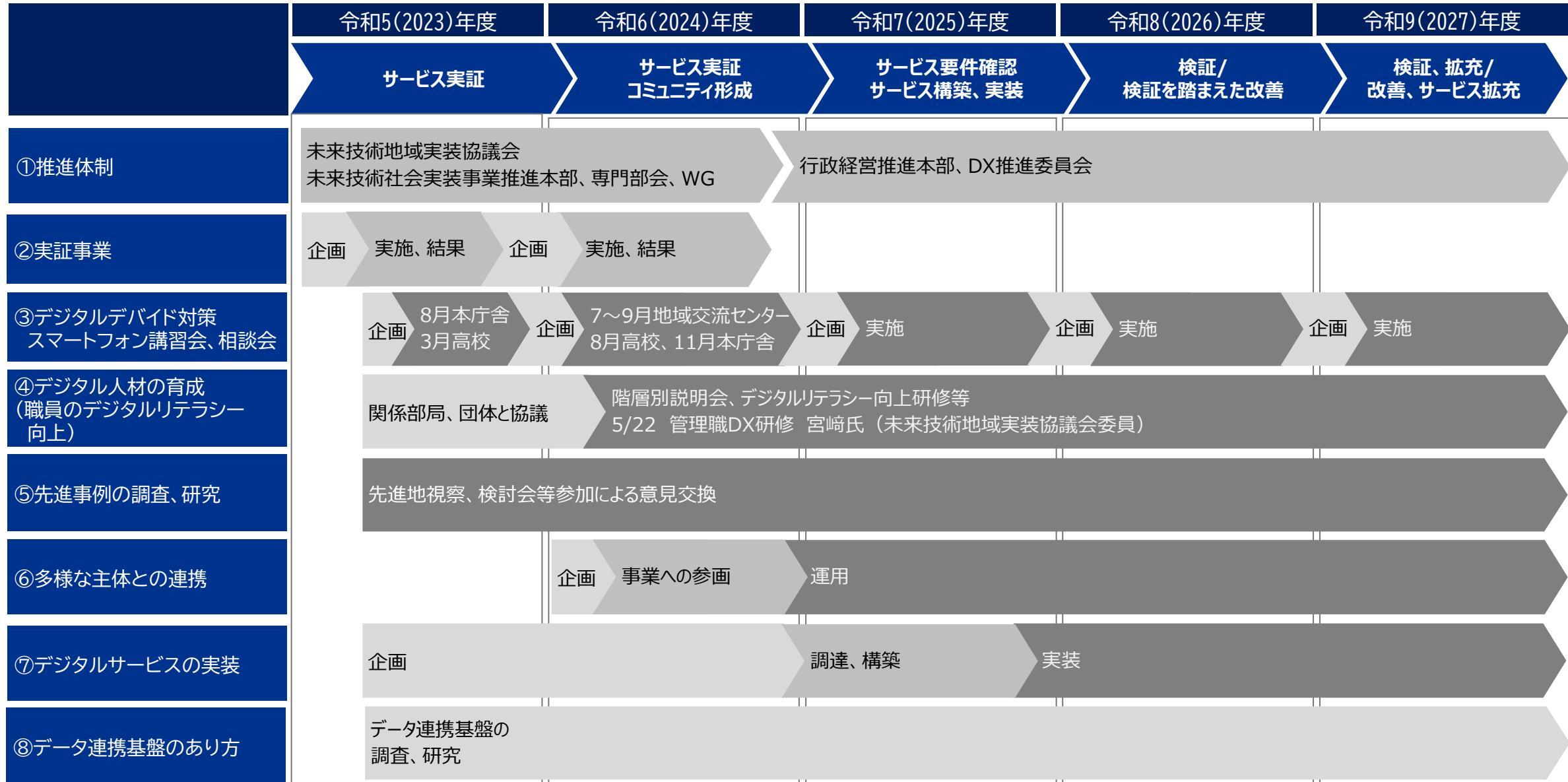
市の課題の解決と市民等の心豊かな暮らし及び住みやすいまちづくりの更なる向上並びに未来技術を活用した新しい地方創生の実現を図る。

【所掌事項】

- ・未来技術社会実装事業に関すること
- ・その他

全体ロードマップ

デジタルサービス実証の結果からサービス実装に向けた課題等を確認する。また、実装後は、PDCAサイクルにより、効果を検証し、取組内容を改善する。



令和6年度事業の主な取組について

令和6年度事業の主な取組については、以下のとおり。

1 実証事業の実施

「地域の助け合い（共生、共創）の促進、みんなでまちを支えるきっかけづくり」を目指して、令和5年度は、働く世代や子育て世代をターゲットにした「脱炭素行動の可視化サービス」や「デジタル技術を活用した意見聴取ツール」の実証を進め、「地域のつながり基盤」の可能性を検証した。

令和6年度においては、「コミュニティをよくする活動促進サービス」をテーマとして、「脱炭素行動の促進」かつ「地域コミュニティの活動促進」について寄与するサービス実証を行う。具体的にはデジタル地域ポイント等のデジタルサービスを活用した共助の輪づくりについて、関係部局とともに、令和5年度実証事業にて得られた成果と課題を踏まえつつ、運用上の課題や実装に向けた制度設計に関する事項を検証する。

2 デジタルデバイド対策

ICT技術による持続可能なまちづくりを推進し、市民一人ひとりの幸福度向上と社会課題解決を図るために、誰ひとり取り残されない包摂的な取組が重要である。デジタル活用の利便性を誰もが享受できるよう、地域で支えあう環境の整備を進める。関係部局や各種団体と連携しながら取組んでいく。

3 デジタル人材の育成

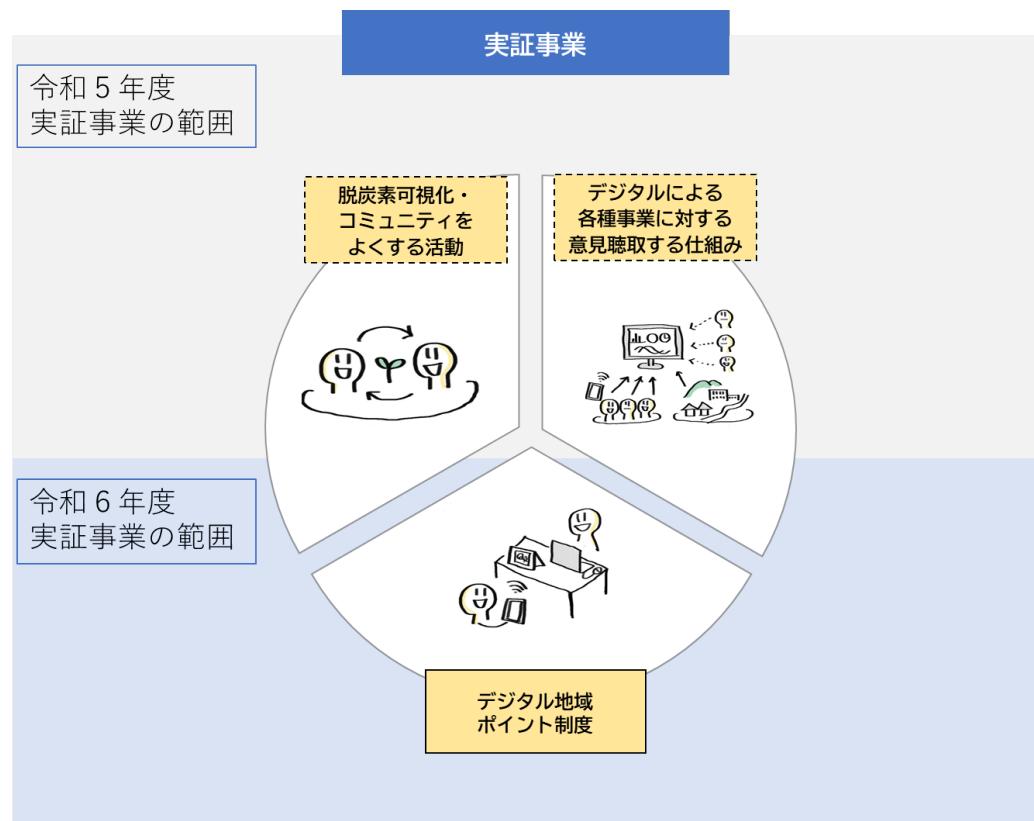
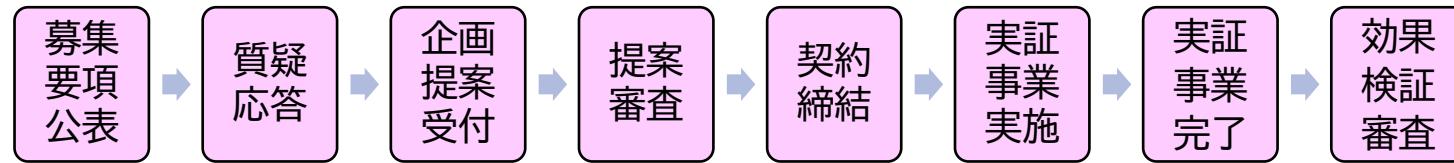
デジタル技術等を活用した企画立案をするためには、職員のデジタルリテラシーの維持・向上、地域課題の解決に向けたデータ分析に取組めるデジタル人材の育成が必要である。関係部局とともに人材育成に取組んでいく。

4 多様な主体との連携

ICT技術による持続可能なまちづくりの実現（スマートシティ）にあたっては、市民、企業・団体や教育機関等と共に創による連携が必要である。取組にあたっては、関係部局とともに進める。

令和6年度実証事業について

たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの社会実装につながる先進的なデジタル技術を活用した実証事業を公募し、高砂市は提案内容を審査し、採択された実証事業に対し、実証事業を行うフィールドを提供するとともに、実証事業に係る広報のPR作業、関係機関との調整等、可能な範囲において、伴走型支援を行います。



【デジタル地域ポイント事業】

事業者名：株式会社両備システムズ

システム：i-Blend

概要：生活に身近なデジタル機器であるスマートフォンを活用し、高砂市公式アプリにポイント機能を追加して市民が事業に参加しやすい環境を整備する。ポイント事業を展開することで、市民等の脱炭素行動や地域コミュニティの活動促進に資する行動変容を促す。

【地域活動支援事業】

事業者名：株式会社シーピーユー

システム：結ネット

概要：電子回覧板等の機能を有するツールを活用してデジタル情報を発信・周知することで、自治会における業務の削減及び脱炭素行動を促進する。また、災害モードを活用し、災害時に必要な情報を発信することができ、支援が必要な方に迅速に対応する。

実証事業で測りたい効果について

令和6年度における実証事業では、コミュニティの活動促進をテーマとし、「脱炭素行動の促進」かつ「地域コミュニティの活動促進」に関するデジタルサービスを活用し、共助の輪づくり等のきっかけについて効果検証する。

目指す将来像

- ・デジタルで かえる かなえる 誰一人取り残さない 笑顔と思いやり育むまち高砂

目指したい姿

- ・人口が減少する中、市民のくらし・まちの賑わい・行政サービス水準を確保する
- ・高砂ならではの顔が見えるコミュニティの助け合いの風土を維持・促進する

実証事業で測りたい効果

- ・地域の助け合い（共生、共創）の促進
(みんなでまちを支えるきっかけづくり)

①株式会社両備システムズ

②株式会社シーピーユー

実証事業概要（デジタル地域ポイント事業）

デジタル地域ポイント事業については、多様な主体と連携しながら事業に取組む。また、現在市民が利用している高砂市公式アプリ「たかさごナビ」を用いた実証事業であるため、事前に周知していく。

▼実証テーマ

市民の行動変容を促すとともに、多様な主体と連携し、共助の輪づくりや地域づくりの促進を目指す。

▼概要

生活に身近なデジタル機器であるスマートフォンを活用し、高砂市公式アプリにポイント機能を追加して市民が事業に参加しやすい環境を整備する。ポイント事業を展開することで、市民の脱炭素行動や地域コミュニティの活動促進等に資する行動変容を促す。

▼実施内容

- ・多様な主体が集まる場を設け、実証事業の取組について、地域の実情の把握、展開に向け議論を深める。
- ・市または地域が主催する事業に対して、デジタルツールを活用して参加者の行動変容について効果を測定する。



▼実証指標案（期間：10/1～12/8）

- | | |
|-------------|----------|
| ①ポイント事業参加者数 | 700人 |
| ②特典応募参加者数 | 200人 |
| ③アンケート結果 | 満足度70%以上 |
| ④参加主体数 | 5団体 |

▼機能について

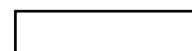
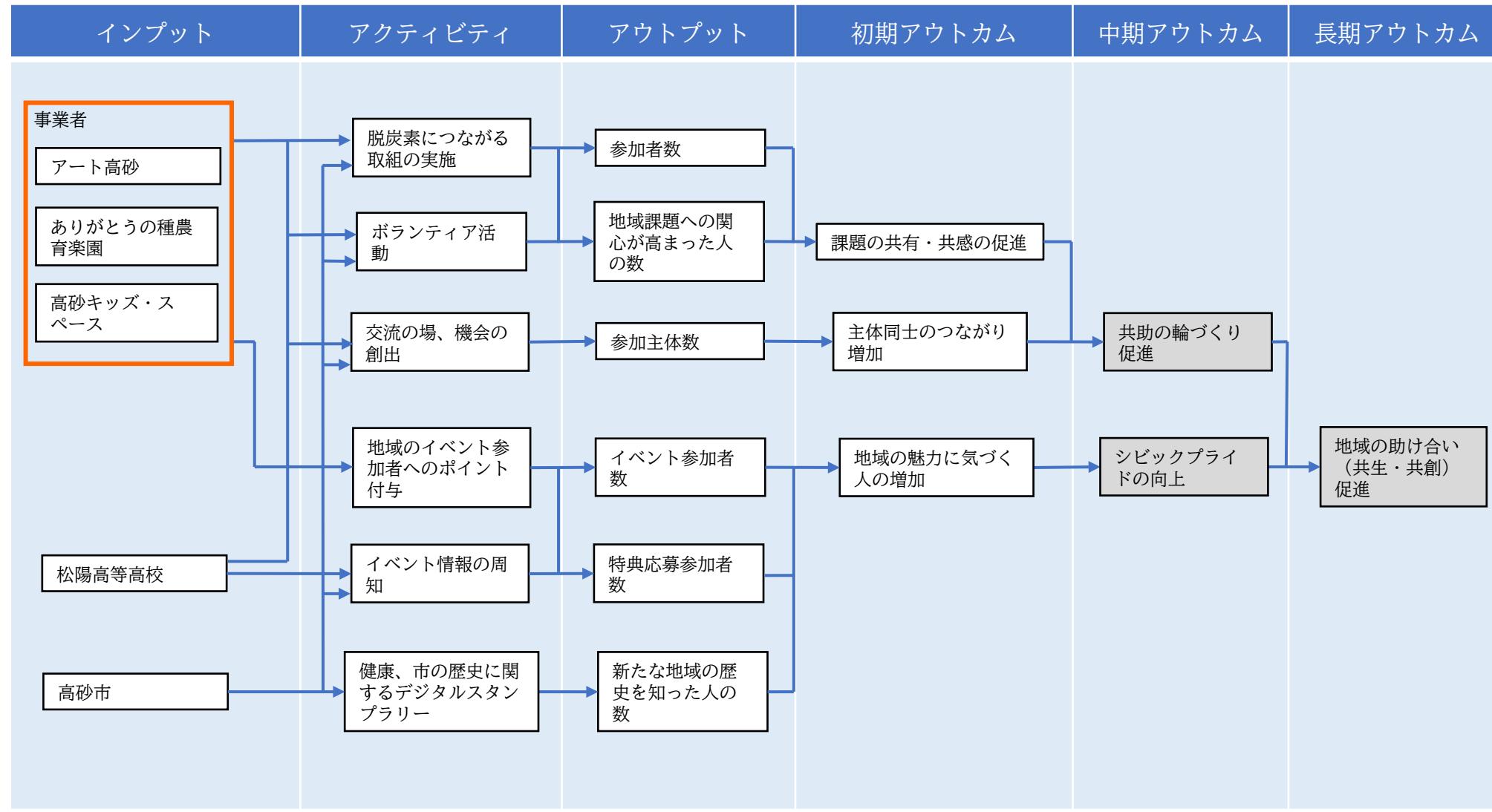
- ①ポイント管理機能
- ②マップ機能
- ③アンケート機能
- ④属性データの取得

▼スケジュール

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 5月 | 多様な主体（関係者）と連携に向けた協議
イベント等実施事業の調査 |
| 6月 | 関係者への事業説明会 |
| 7月 | 事業実施に係る関係者協議 |
| 8月 | 事業実施に係る周知 |
| 10月 | 事業実施（効果測定） |
| 12月 | 事業結果報告 |

ロジックモデル（デジタル地域ポイント事業）

デジタル地域ポイント事業におけるロジックモデルでは、以下のとおり。



「インプット」「アクティビティ」などの各列における構成要素（実証範囲内）



構成要素の親子関係または因果関係



「インプット」「アクティビティ」などの各列における構成要素（実証範囲外）



構成要素のグループ

地域活動支援事業は、自治会等の地域コミュニティにおける規模、取組内容が重要であるため、事前に市から自治会に対して参加意向調査を実施する。その後、事業説明及びヒアリングを実施しながら、取組を進めていく。

▼実証テーマ

ICTによる時代に合った地域の基盤づくりへ導き、地域内共助の取組み、コミュニティ活動の維持・向上を目指す。

▼概要

電子回覧板等の機能を有するツールを活用してデジタル情報を発信・周知することで、自治会における事務の削減及び脱炭素行動を促進する。また、災害モードを活用し、災害時に必要な情報を発信することができ、支援が必要な方に迅速に対応する。

▼実施内容

- ・自治会等の地域コミュニティに関する取組内容を可視化する。
- ・ツールの機能を活用し、情報発信による行動変容を測定する。
- ・複数のコミュニティ間での情報伝達の有用性について検証する。



▼実証指標案（期間：8/1～11/30）

- | | |
|------------------|----------|
| ①自治会内アプリダウンロード割合 | 50%以上 |
| ②ダウンロードアプリ利用率 | 70%以上 |
| ③地域活動情報発信増加率 | 20%以上 |
| ④地域活動参加者数増加率 | 10%以上 |
| ⑤自治会活動の事務削減率 | 20%以上 |
| ⑥アンケート結果 | 満足度70%以上 |

▼機能について

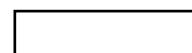
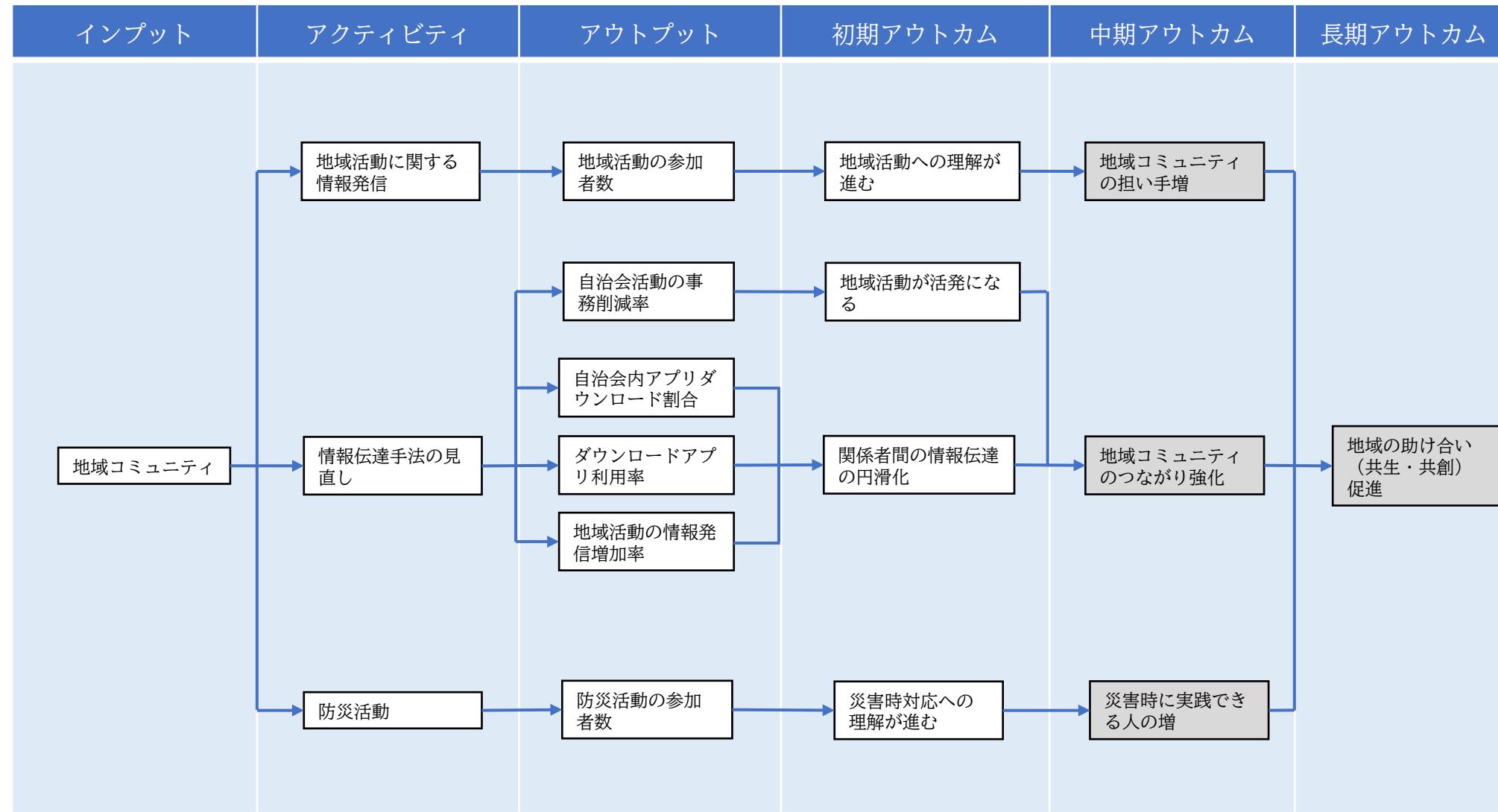
- ①連絡網機能、②グループウェア機能
- ③一斉配信機能、④災害時機能

▼スケジュール

- | | |
|-----|----------------------------|
| 5月 | 自治会へのアンケート調査の実施 |
| 6月 | アンケート調査集計 |
| 7月 | 自治会ヒアリング及び事業説明会
取組内容の整理 |
| 8月 | 事業実施（効果測定） |
| 12月 | 事業結果報告 |

ロジックモデル（地域活動支援事業）

地域活動支援事業におけるロジックモデルでは、以下のとおり。



「インプット」「アクティビティ」などの各列における構成要素（実証範囲内）

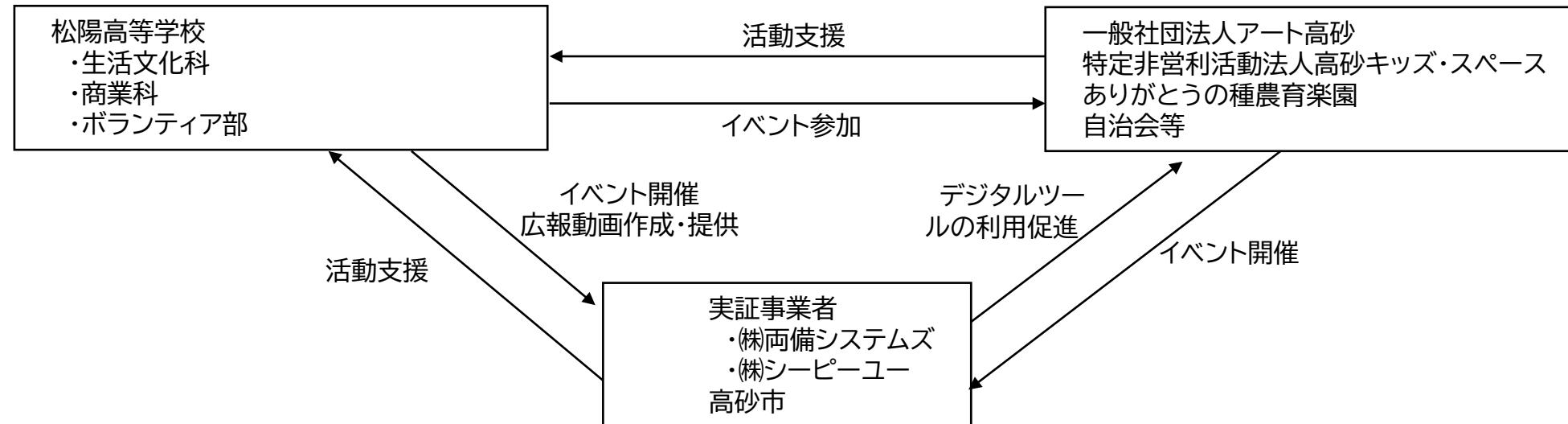


「インプット」「アクティビティ」などの各列における構成要素（実証範囲外）



多様な主体との連携について

多様な主体と連携するにあたっては、多様な主体の間で、取組みたいこと、それを実現するための課題について対等に協議し、情報を共有できる場が必要である。さらに、できること、できないことを主体同士が補完しあいながら取組むこととする。



	名称	役割
1	高砂市	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業の実施 ・関係者間の連絡調整
2	実証事業者 (株)両備システムズ	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業の実施 ・デジタルサービスの提供 (デジタル地域ポイント事業)
3	実証事業者 (株)シーピーユー	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業の実施 ・デジタルサービスの提供 (地域活動支援事業)
4	自治会等	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業への参加

	名称	役割
5	松陽高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催(だれでも食堂) ・商店街での物販活動 ・SDGs活動(アオサの清掃) ・実証事業広報に係る動画等の作成
6	一般社団法人 アート高砂	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催(福結び市等)
7	特定非営利活動法人 高砂キッズ・スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の活動支援
8	ありがとうの種農育楽園	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の活動支援

実証事業のスケジュールは、市が多様な主体と連携して取組むとともに、事前に周知期間を設けることとする。また、データ検証等は、実証期間中に定期的に行い、残実証期間における取組の改善に活用していく。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
①実証事業公募等										
②市推進体制の整備										
③市関係部署会議										
④関係者会議(主体間)										
⑤実証事業 (地域活動支援事業)		広報資材準備 アンケート配付	アンケート収集、システム設定	自治会等への説明、ヒアリング	実証事業の周知	事業実施				
(デジタル地域ポイント事業)				システム設定	関係者への操作説明	事業実施				
⑥効果検証 (地域活動支援事業) (デジタル地域ポイント事業)				検証方法の検討	データの収集、検証		成果と課題の検証			
					検証方法の検討	データの収集、検証	成果と課題の検証			
⑦報告書作成							報告書作成			

デジタルデバイド対策について

ICT技術による持続可能なまちづくりを推進し、市民一人ひとりの幸福度向上と社会課題解決を図るためにには、誰ひとり取り残されない包摂的な取組が重要である。デジタル活用の利便性を誰もが享受できるよう、地域で支えあう環境の整備を進める。関係部局や各種団体と連携しながら取組んでいく。

1 移動型スマホ教室の実施

通信事業者と連携し、MaaS型の専用車両と通信ネットワークを活用し、どこにでも、だれでも、参加しやすいスマホ教室を開催する。

- ・連携先：ソフトバンク株式会社
- ・日程：7～9月
- ・場所：本庁舎、地域交流センター
- ・講座内容：スマートフォンの基本操作について



2 地域でのスマホ講習会の実施

市内にある県立高校2校と連携し、地域でのスマートフォン講習会、相談会を開催する。

- ・連携先：高砂高等学校、高砂南高等学校
- ・日程：8月、11月
- ・場所：本庁舎、高校
- ・講座内容：スマートフォンの基本操作について